

はじめに

ここまでできた  
こと

# 進捗報告

島崎 圭介

富山県立大学 情報システム工学科

2024年11月12日

# はじめに

2/7

## 中間発表を終えて

中間発表でさまざまな意見と質問をもらいました。

## 質問と疑問点

- ・無理なスケジュールに対してどのような対応をとるか.(1)
- ・ランダム性を追加したら並列分散処理はより効果的になると思う.. また卒論での数値実験はどうするのか.(2)
- ・多目的計画問題の際に費用について最小にする場合, 学習支援システムの時に何に当たるのか.(3)
- ・時間と費用ならば, 時間は分かるが費用を最小にすると考える  
とどのようなものに置き換えるのか.(4)

# 質問と疑問点について

## (1) と (2) について

(1) については、中間発表の場では、かなり短い期限の場合にどうするのかということがあったが、それはいかに点数をあげるのようすべての単元をするのではなく、基礎の部分をスケジュールとして立てるといったが、今はそのような方針でいこうと思っている。その場合CPMの計算が少し変わってくるという心配があるが、その面をどうするかを考える。

(2) については、最初は意見だったので大丈夫だが、卒論での数値実験では、中市さんは実際に使ってみてのアンケート結果だったが、今回はそれに加えてファジィ・ランダム変数でのCPMの計算結果と並列分散処理の処理速度についての数値実験として結果を出す予定です。

# 質問と疑問点について

## (3),(4)について

(3),(4)については、現在考えている途中でそもそも杉山さんのファジィ・ランダムを使用しているCPMの方法が元々考えているCPMの計算方法と違うのでどうするかを考える必要がある。LS,LFなど考慮する方法があるがどちらにもファジィ・ランダムを変数に入れることができると思っているのでどちらの方法を使うかを考える。

# 質問と疑問点について

## まとめ

様々な意見のなかで、なるべく全てのことに対して改善できると良いと考えている。また、図などの変数の説明が中途半端になったと自分で思うのでその図などの作成などを完璧におこなって卒論の制作を急ぐ必要があると思った。

# 最後に

6/7

## 今後

中間発表を終えて次に卒論の制作に力をいれる。また、中間発表ではファジィ性のみを導入したので、そこにランダム性を追加してCPMを解くということをまず第一に進めて完成させる。

そのプログラムが完成したら並列分散処理を行って実際に動かせるように進めその間に卒論も書いていかなければならない。

はじめに

ここまでできたこと